

実施日：令和7年6月6日（金） コマ：3

事業名：鉄道防災事業（青函防災）

【とりまとめコメント】

- ・ この間のやりとりを通じて進められた検討は評価したい。検討の対象であるアウトカムについては、提案のとおりでよいが、老朽化等の厳しい環境を踏まえれば、「（老朽化の状況把握等）適切なリスク・モニタリングの実施、改修計画の策定」の状況を短期アウトカム（アウトプットでも可）に採用するのがよいのではないか。
- ・ たとえば、検討会で指摘された箇所や事象に対応できたか、というような指標は考えられないか。また、優先度も様々な観点から決定されると思われ、定量指標をつくるとすれば、対策が必要な箇所別に観点別評価も掲載するほうが良いのではないか。
- ・ 予防保全の観点をアウトカムに入れようとしていることに賛成。そのうえで、検査の仕方として目視や打音などのアナログの検査からデジタル技術へのシフトのスピードを一層早めることが必要。
- ・ 老朽化については、トンネル本体、設備のそれぞれについて、対応を行っており、その対応状況、検査結果や予防保全対応についてのプロセス、進捗をアウトカムとすることを検討いただきたい。又、最先端の検査方法については、海外含めた他地域における方法を導入することも検討いただきたい。
- ・ 短期的アウトカムとしては点検と補修・更新の確実な実施、中期的にはデジタル技術の導入による点検補修の効率化と点検精度の向上、長期的には事故等を起こさずに急増する修繕費用を適切な予防保全によってどれほど削減できた（る）のか示してほしい。
- ・ アウトカムの設定については、予防保全が必要な箇所の数および範囲が随時変わることを前提に（後からより重要な補修箇所が生じることもありうるので）、各時点で重要と判断された施設について対応完了に要した時間、当該完了した数を把握するほうが（割合よりも）妥当であるように思う。

【外部有識者のその他コメント】

- ・ 2038 年度末に予定されているとされる北海道新幹線の全線開業までに残された期間、また老朽化による劣化等を考えると、青函トンネルの設備のリニューアル・更新はきわめて重要・急務で、抜本的な対応が求められるのではないか。資金負担も巨額と見込まれ、政府の役割は重要。さらなる検討を進められたい。
- ・ 開業から 35 年以上経過していることを考えると検査の頻度を高め範囲を広げることが必要になる可能性もあるからこそ、デジタル化による人員削減などの効率化をさらに考えていく必要がある。

（以 上）